



交通安全への取り組み評価「優良学校」に!

交通安全教育を積極的に推進して子供たちの保護と交通マナーの確立をはかり、交通事故防止に顕著な貢献をしたとして、帯山西小学校が本年度の「交通安全優良学校表彰」を受賞することになりました。この表彰式は、1月に東京で行われたのですが、私はコロナ禍のため、参加できませんでした。式には秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席のもと行われ、岸田総理大臣等が来賓として挨拶するような大々的なものでした。それを受けて、伝達式が熊本東警察署で本日21日に行われ、学校を代表して私がそれに参加し、全日本交通安全協会の表彰状や記念品を受け取りました。



本校では、長年にわたって、新入生対象とした交通安全教室の実施をはじめ、4年生への自転車教室、交通安全協会やPTAと連携した交通安全旗当番、防犯パトロール活動を展開しています。その活動をずっと支えてくださっている交通安全協会帯山西支部の清村支部長は「これからも小学校の交通安全教室等には、地域の方の参加を促すなどして、交通安全への意識を高めていきたい。」と話されました。保護者や地域の方々の継続した取り組みによってこのような栄えある賞を受賞できたことに感謝したいと思います。

これからもみんなが交通安全に気を付け「🟡帯西イエロー」の心でルールを守って、「🟢帯西ブルー」の心で命を大切にすること子供たちに育てて欲しいと思います。

石鹼の力で手洗いを

コロナ禍で、感染防止に有効なのは、マスク・手洗い・うがいだと言われてきました。この手洗いのときに大活躍するのが、石鹼です。石鹼は、パーム(ヤシ)などの植物の油や牛などの動物の油からできています。これにアルカリ性の化学物質を混ぜ、原料となる「界面活性剤」を作ります。さらに、香りや色などを着ける成分を入れ、固形にして石鹼となります。石鹼の起源は、今から約5000年前、今のイラク辺りに住んでいたシュメール人の記録では、獣の肉を焼いて食べていたところ、肉から出た脂と木の灰(アルカリ性の物質)が混ざり、偶然石鹼ができたそうです。これが土に染み込み、手についたその土を洗おうとしたら、泡立つことに気付いたそうです。これが石鹼の始まりとされています。



コロナ禍で大活躍の石鹼ですが、「界面活性剤」の力で汚れを浮かせて落とします。水だけで洗ったときと、石鹼を使って洗ったときのウイルスの数を比べると、水だけの場合は手を洗う前の100分の1になったのに対し、石鹼を使った場合は100万分の1までウイルスが減ったそうです。

これからマスクの着用は本人の意思に委ねられるようになってきますが、手洗いは忘れずに、石鹼の力を上手に活用して身を守って欲しいと思います。